

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事			
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）		氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名）	
長岡京市東神足1丁目10番1号		村田土地建物株式会社 代表取締役社長 藤田能孝 (印)	
		電話 075 - 955 - 6196	

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	貸し事務所業		
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））		
計画期間	平成 18年 4月 ~ 平成 20年 3月		
基本方針	借主と共同で省エネ活動を推進し、供給と使用の両面から改善を進めることで、温室効果ガスの削減を目指す。		
推進体制	借主と共同でエネルギー削減協議会を設置し、削減施策の立案と実行を行う体制を取っている。 1. 借入者及び建物設備を運用している委託会社を交えた、省エネ診断の維持の継続。 2. 環境マネジメントの啓蒙活動と、ISO14001環境マネジメントシステムの推進。 3. クールビズ・ウォームビズの推進奨励による、省エネの実現。		

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容
	18~19	空調	借主と協議を行ない、省エネ法に基く空調温度を遵守する。
18~19	BEMS	BEMSデータの解析を行ない、無駄な稼働設備を削減する。	
18~19	照明・空調	借主と協議を行い、夜間、休日の空調、照明の使用条件の見直しを行う。	
18~19	空調	省エネ診断による、中間期における外気冷房の有効利用する。	
18~19	空調	ガス吸収式冷水機及びガスボイラーのガス消費量の削減する。（夜間電力の有効利用）	

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）	報告年度（実績）	削減率（実績）
		(17)年度 (二酸化炭素換算 (t))	(19)年度 (二酸化炭素換算 (t))	(%)	(19)年度 (二酸化炭素換算 (t))	(%)
A	事業所等排出区分	2,889 t	2,860 t	-1.0 %	3,758 t	30.0 %
B	輸送車両排出区分	t	t	%	t	%
C	その他排出区分	t	t	%	t	%
	排出合計	*1 2889 t	*2 2,860 t	-1.0 %	*4 3,758 t	30.0 %

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		(二酸化炭素換算 (t))		取組量等		(二酸化炭素換算 (t))	
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(売電量)	kwh	(削減量)	t	(売電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	削減量等合計	*3 t				*5 t			

差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）	報告年度（実績）	削減率（実績）
	*1	2,889 t	(*)2-(*)3 2,860 t	-1.0 %	(*)4-(*)5 3,758 t

特記事項 当事務所ビルは2004年に竣工したオフィスビルであったが、2007年10月に研究開発棟を増築した。それに伴い従業員数も32%増加しエネルギーの消費量が増え、温室効果ガスの排出量が増加した。但し、1人当たりの温室効果ガスの排出量は、平成17年度：2.118 t-CO2（基準年度）  
平成18年度：2.021 t-CO2 -4.6%  
平成19年度：1.983 t-CO2 -6.4%  
と減少している。

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。  
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入  
 5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比エネルギー原単位CO2排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定プロセスなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。